

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：31307

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03310

研究課題名（和文）京都市東九条における日本人・在日コリアン・フィリピン人の関係形成についての人類学

研究課題名（英文）Anthropological Research on social relationship building among Japanese residents, Korean immigrants, and Filipino migrants at Higashikujo in Kyoto.

研究代表者

永田 貴聖（Nagata, Atsumasa）

宮城学院女子大学・現代ビジネス学部・准教授

研究者番号：80551093

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、フィリピン人移民研究の視点から、京都市・東九条地域において、日本人・在日コリアン・フィリピン人の「複数エスニシティ・ナショナリティ関係」が構築される次の過程に注目した。1、多文化交流サロンに集まるフィリピン人たちの同施設内での活動と地域の人びとと関係する過程、2、東九条マダンの活動に注目し、日本人、在日コリアンの関係にフィリピン人たちがかわる過程、3、E9シアターや、東九条若手演劇活動家、コミュニティカフェにおいて関係が構築される過程である。この複数エスニシティ・ナショナリティ関係はより動的に変化し続ける過程に入っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これらの動向に注目することは、日本国内における、日本人と複数の出自の海外移住者が関係を形成する研究への大きな貢献となる。今後は、海外のフィリピン人移住者研究、在外コリアン研究にも発信し、フィリピン人移民、在外コリアンそれぞれが同胞以外の人びとと関係する過程に注目するという視点を導入する。さらに、移民研究という視点からみたとき、特定の民族・国籍の移民集団に焦点を当てるといった従来型の研究方法ではみえなかった複数エスニシティ・ナショナリティ関係への動態に注目するという新たな展望を構築することになる。このような関係の拡大は進んでおり、今後も目が離せない動向である。

研究成果の概要（英文）：On the perspective of Filipino immigration studies, This study focuses on the following process of constructing "multi ethnicity-nationality relationship" among Japanese, Zainichi Koreans, and Filipinos, in the Higashi Kujyo area, Kyoto City. Three processes were examined: 1) the process of Filipinos gathering at the multicultural exchange salon and their activities in the facility and their relationship with local people; 2) the process of Filipinos engaging in the relationship between Japanese and Zainichi Koreans in focusing on the activities of Higashi Kujyo Madang; 3) the process of building relationships at E9 Theater, Young Theater Activists, and a community cafe. This multi ethnicity-nationality relationship has been entering a more dynamic and ever-changing process.

研究分野：文化人類学

キーワード：複数エスニシティ・ナショナリティ関係 在日コリアン フィリピン 移民

1. 研究開始当初の背景

移民に注目する文化人類学および社会学による研究が「トランスナショナリズム (Transnationalism)」の視点を採用して以降、移民が出身地から移動した移住先の社会に適応・同化することを前提とする移民研究の分析枠組みは大きく変貌した。移民が本国の家族や友人と地域的な距離を越えて関係を継続するだけではなく、世界に散在する同じ出自をもつ民族や国民が関係し、複数の移住先間が世界的に結ばれるネットワークが明らかになりつつある。しかし、「トランスナショナリズム」は、移民が出身先と関係を継続し、帰属意識を持ち続けること、帰属意識を基盤とする移民の世界ネットワークの存在を過度に強調するという弱点を備えている。これは、従来の研究に多くみられる同じ移住先に住む同じ出自の移住者同士が関係を形成することや、エスニック空間を構築する側面を強調した応用にすぎないという解釈もできる(ベル 2016)。だが、移民は、既存の視点だけでも、「トランスナショナリズム」視点でもとらえられない、状況に応じて、移住先社会の人びとや他の出自をもつ移民たちと協働すること、他国出身の移民たちが作り出した資源を活用する生活を実践している(河上 2014)。

これまで、研究代表者は、1980年代から現在にかけて、移動する年代や経緯が異なるさまざまなフィリピン人たちが来日し、定住する過程を受け入れる日本と送り出すフィリピンから考察してきた。移住後、フィリピン人たちは、出身先の家族や友人と関係を継続するとともに、カトリック教会に同胞の自助グループを形成し、関係を構築した。さらに、日本人の夫や支援者など、状況に応じて、日本人と関係する実践を展開してきた。そして、現在、全国各地の外国人支援 NGO やカトリック教会において、日本人、フィリピン人を含む多様な出自を持つ海外移住者たちが互いに関係を形成しつつある。在日コリアンの集住地域でもある京都市・東九条地域にある京都市地域多文化交流ネットワークサロン(以下、多文化交流サロン)では、2012年頃から、研究代表者がフィールドワークで長年関係してきたカトリック教会を基盤に活動するフィリピン人自助グループが活動をはじめ、地域の日本人、在日コリアンと交流を開始している。多文化交流サロンは、長年、地域の社会問題に取り組んできたカトリック系の社会福祉法人・希望の家によって委託運営されている。そして、現在、カトリック信徒が大多数を占めるフィリピン人たちが多文化交流サロンに集まるだけでなく、ここで活動するフィリピン人たちの一部が地域に住む在日コリアンと日本人が協働する民衆の祭りである「東九条マダン」などに参加し、関係をさらに拡大しようとしてきた。

2. 研究の目的

本研究は、移民が出身先の家族や友人と関係を継続することや、出自の国家・民族を基盤として関係する側面だけでなく、移住先において、状況に応じて、移住先社会のマジョリティや他の移民と関係を構築することを明らかにする。研究代表者は京都市・東九条地域において日本人、在日コリアン、さらにフィリピン人移住者が関係を構築する過程を焦点とする。これらの動向に注目することは、日本国内における、日本人と複数の出自の海外移住者が関係を形成する研究の第一歩となる。また、海外のフィリピン人移住者研究、在外コリアン研究にも発信し、フィリピン人移民、在外コリアンそれぞれが同胞以外の人びとと関係する過程に注目するという新しい視点を導入する。

3．研究の方法

本研究では、京都市・東九条地域にある多文化交流サロンで活動するフィリピン人グループや集まる個人たちを中心の対象としつつ、フィールドワークと参与観察、社会関係構築過程を理解するためのインタビュー調査を実施する。また、「東九条マダン」、東九条地域にある芸術活動、コミュニティカフェ運営、メディア運営など、日本人、在日コリアン、フィリピン人が協働で行う活動も調査の視野に入れ、複数エスニシティ・ナショナリティ関係が構築される場を民族誌学的フィールドワークにより、分析する。

4．研究成果

本研究では、京都市・東九条地域において日本人、在日コリアン、さらにフィリピン人移住者が関係を構築する過程を焦点としてきた。そして、現在でも当該地域では、「複数エスニシティ・ナショナリティ」の変容の動きが続いている。これらの動向に注目することは、日本国内における、日本人と複数の出自の海外移住者が関係を形成する研究への大きな貢献となる。今後は、海外のフィリピン人移住者研究、在外コリアン研究がそれぞれの同胞以外の人びとと関係する過程を考察するという視点を導入する。

本研究は、京都市・東九条地域を集住地域とする在日コリアン、日本人、フィリピン人移住者の関係に焦点を当て次の3つの過程を明らかにしてきた。

- (1)多文化交流サロンに集まるフィリピン人たちの同施設内での活動と地域の人びとと関係する
- (2)東九条マダンの活動に注目し、日本人、在日コリアンの関係にフィリピン人たちがかわる
- (3)E9シアターや、東九条若手演劇活動家、コミュニティカフェにおいて、この3つのエスニシティ集団が交わる過程

京都市・東九条地域内は被差別部落の流れをもつ多くの人びとと在日コリアンの混住地域である。この地域は、かつては、劣悪な住環境問題、現在では、住民の高齢化と継続される貧困などの社会問題を抱えている。そのため、多くの社会運動が問題を解決しようと展開している。これまでの研究では、この地域のさまざまな異なる利害を持ったいくつかの住民組織が複雑な関係を抱えながらも行政に住環境改善や地域開発などを要求する過程を明らかにされてきた。さらに、地域では、朝鮮半島の民衆芸能マダン劇を在日コリアンの社会に持ち込んだ祭りである「東九条マダン」が20年以上続いている。他の在日コリアンが集住する地域においても「ハンマダン」が行われている。しかし、「東九条マダン」の特徴は在日コリアンだけではなく、他地域の「ハンマダン」では演奏者や役者として参加することができない日本人住民もそれらの役割を担うことができる。つまり、在日コリアンだけではない、民衆全体がつながりあう「祭り」なのである。そして、この地域を拠点に活動しているカトリック系の社会福祉法人・希望の家では、長年、地域に住む在日コリアンや日本人住民たちへの生活改善や就学支援を行ってきた。また在日コリアン1世への聞き取り調査によるオーラル・ヒストリーの作成なども実施している。そして、職員が実行委員会に参加することや、練習スペースを提供するなど「東九条マダン」とも深く関係している。

現在、複数のフィリピン人グループが、希望の家が運営する多文化交流サロンで活動している。

活動するフィリピン人たちの中には東九条地域以外に住む人びともいる。ここで活動するフィリピン人たちは、多文化交流サロンが主催する外国人住民理解のためのセミナーや、外国人向けの新規来日児童生徒のための教育に関するワークショップなどに通訳補助などで運営に関わっている。また、活動に参加する地域に住むフィリピン人の中には、京都市内の新規来日児童生徒のための母語指導員などで活躍する人や、英語講師として活動する人もいる。そして、このようなフィリピン人たちの一部が、2015年後半から「東九条マダン」の活動に参加し始めている。また、2019年以降、多文化交流サロン周辺には、E9シアターが開設されるなど、東九条マダンで活躍した若手演劇活動家が活発に活動している。さらに、コミュニティカフェほっこりなどこれまでになかった「居場所」や「出会う機会」において、3つのエスニシティ集団が交流を活発にするが増加している。そして、この動きは、コロナ19拡大感染以降もオンライン活動などを通じてより活発になりつつある。

特に2022年以降は、2019年以降に活発化しつつあるコミュニティカフェほっこりが媒介的な拠点となり、3つのエスニシティ集団(日本人、在日コリアン、フィリピン人)が交流を活発にする「居場所」になりつつあることに焦点を当ててきた。そこでの複数エスニシティ・ナショナリティ「関係」は静態的なものからより動態的な「駆動域」となり、変化し続ける過程に入っている。例えば、カフェにインドネシア人スタッフがかかわったことで、3つのエスニシティ集団の交わりはより複数名のものに変貌しつつある。複数エスニシティ・ナショナリティ関係の拡大はさらに進んでおり、今後も目が離せない動向であり、継続した考察が必要である。

(引用文献)

ベル裕紀．2016「通り過ぎること、埋め込まれること 韓国・安山市におけるカンボジア人移住労働者団体の設立過程を事例として」『年報人類学研究』6：104-131．

河上幸子．2014『在米コリアンのサンフランシスコ日本街 境界領域の人類学』 御茶の水書房．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 永田 貴聖	4. 巻 6
2. 論文標題 書評・新刊書紹介 松尾昌樹・森千香子編『グローバル関係学6 移民現象の新展開』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『東南アジア－歴史と文化』	6. 最初と最後の頁 57-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田 貴聖	4. 巻 61
2. 論文標題 「東アジアの未来」を基盤とする国際英語ワークショップの事前学習実践の成果と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 龍谷大学経営学論集	6. 最初と最後の頁 107～115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50873/10122	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 永田 貴聖	4. 巻 24
2. 論文標題 韓国済州市におけるフィリピン人移民の社会関係に関する事例研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 多民族社会における宗教と文化：共同研究	6. 最初と最後の頁 53～61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20641/00000585	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 永田貴聖	4. 巻 62
2. 論文標題 本の紹介 山本崇記著『住民運動と行政権力のエスノグラフィー差別と住民主体をめぐる 京都論』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都部落問題研究資料センター通信	6. 最初と最後の頁 7 - 10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Seiger Fiona-Katharina, Nagata Atsumasa	4. 巻 1
2. 論文標題 Hosting Migrants in Kyoto City: Different Migrant Cohorts and Mutual Support	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Global Perspectives	6. 最初と最後の頁 on line article
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1525/gp.2020.13331	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 永田貴聖	4. 巻 26
2. 論文標題 2つのトランスナショナルーフリピン人移民研究からの視点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 移民研究年報	6. 最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田貴聖	4. 巻 1
2. 論文標題 序論 一元から多元に広がる関係へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立命館生存学	6. 最初と最後の頁 15-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 永田 貴聖
2. 発表標題 移民研究を実践すること「オートエスノグラフィ」の視点から
3. 学会等名 日本移民学会第32回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 NAGATA, Atsumasa
2. 発表標題 New Collaborations among Japanese, Zainichi Koreans, and Filipinos through Music and Performing Arts in the Higashi-Kujyo area of Kyoto-city.
3. 学会等名 Fifth Online Meeting of the Special Research Project on National Museum of Ethnology, Performing Arts and Conviviality (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 永田貴聖
2. 発表標題 複数のRootsを交差させる研究活動試論
3. 学会等名 宮城学院女子大学附属キリスト教文化研究所 多民族グループ 2021年度第3回公開研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 永田貴聖
2. 発表標題 複数のRootsの人びとが交わることができるのか? - 在日フィリピン人移住者への文化人類学研究からの視点
3. 学会等名 日本文化人類学会 東北地区研究懇談会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 永田貴聖
2. 発表標題 フィリピン人移住者が作る複数エスニシティ・ナショナルリティ関係
3. 学会等名 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 共同研究「多民族における宗教と文化」2020年度第1回公開研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永田貴聖
2. 発表標題 在日コリアンと在日フィリピン人が交差する場ー京都市東九条から
3. 学会等名 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 共同研究「多民族における宗教と文化」2020年度第3回公開研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永田貴聖
2. 発表標題 韓国・ソウルなど各地に出現するフィリピン移住者の社会関係と「フィリピン」空間
3. 学会等名 ワークショップ 東アジアにおける人の移動と交易 多文化空間・場所・アイデンティティの動態に着目して（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永田貴聖
2. 発表標題 韓国・済州島済州市におけるフィリピン人移住者の社会関係について
3. 学会等名 第53回 日本文化人類学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永田貴聖
2. 発表標題 2つのトランスナショナル フィリピン人移民研究からの視点
3. 学会等名 日本移民学会第29回年次大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NAGATA, Atsumasa.
2. 発表標題 Multicultural Coexistence and Religion in Contemporary Japan (2): Filipino Social Relationships Based on a Community Welfare Facility Related to the Catholic Church in Kyoto City.
3. 学会等名 The 2nd Annual Conference of the East Asian Society for the Scientific Study of Religion. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NAGATA, Atsumasa
2. 発表標題 Recent Situation of Filipino Social Relationships in Kyoto City.
3. 学会等名 Netherlands Organization for Scientific Research & JSPS Conference. Media, migration and nationalism: Comparing European and Asian Experiences and Perspectives. (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永田貴聖
2. 発表標題 外国人移住者と関わる人びと T国際交流センターの活動に参加するボランティアや支援者たちへの考察
3. 学会等名 国立民族学博物館・共同研究(2015-18年度) 『応援の人類学 政治・スポーツ・ファン文化からみた利他性の比較民族誌』(代表:丹羽典生 准教授)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 NAGATA, Atsumasa
2. 発表標題 Developing Filipino Spaces in Seoul, South Korea.
3. 学会等名 4th Philippine Studies Conference in Japan. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永田貴聖
2. 発表標題 フィリピンルーツ2世にとってのフィリピン料理とその意味
3. 学会等名 マイグレーション研究会 2018年12月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永田貴聖
2. 発表標題 在日コリアンと在日フィリピン人の関係形成に関する人類学研究
3. 学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nagata, ATSUMASA
2. 発表標題 Human motilities from the Philippines to East Asia and activities of Filipino migrants-relations with Korea and Koreans.
3. 学会等名 東亜大学石堂学術院・人文力量強化事業団CORE主催国際シンポジウム「韓国と東南アジア：人間、資本、文化の移動」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 神本秀爾 河野世莉奈 宮本聡 編 永田貴聖担当「国民国家の植民主義と「民族」」（第 部 社会の中の生）p198-208	4. 発行年 2022年
2. 出版社 集広舎	5. 総ページ数 304
3. 書名 ヒューマン・スタディーズ 世界で語る / 世界に語る	

1. 著者名 河原典史 大原関一浩 編著 永田貴聖担当「家庭の味としてのフィリピン料理」p.256-261	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文理閣	5. 総ページ数 277
3. 書名 移民の衣食住 海を渡って何を食べるのか	

1. 著者名 信田敏宏 (永田貴聖 項目『在日フィリピン人』担当)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 832
3. 書名 東南アジア文化事典	

1. 著者名 大賀 哲、蓮見 二郎、山中 亜紀、大井 由紀、宮内 紀子、朴 沙羅、加野 泉、團 康晃、佐々木 てる、永田 貴聖、ジョハンナ・ズルエタ、柏崎 千佳子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 234
3. 書名 共生社会の再構築 シティズンシップをめぐる包摂と分断	

1. 著者名 とよなか国際交流協会、牧里 每治 (永田貴聖ほか)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 外国人と共生する地域づくり	

1. 著者名 渡辺 公三、石田 智恵、富田 敬大（編者）永田貴聖ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 664
3. 書名 異貌の同時代	

〔産業財産権〕

〔その他〕

永田貴聖 宮城学院女子大学 https://www.mgu.ac.jp/professor/%e6%b0%b8%e7%94%b0-%e8%b2%b4%e8%81%96/ https://researchmap.jp/read0140808/ https://www.mgu.ac.jp/main/departments/bussiness/bz/professor/204_nag/ https://researchmap.jp/read0140808/ https://www.mgu.ac.jp/main/departments/bussiness/bz/professor/204_nag/ http://www.arsvi.com/w/na01.htm https://researchmap.jp/read0140808/ 永田貴聖ウェブサイト www.arsvi.com/w/na01.htm
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ベル 裕紀 (Bell Hiroki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------